



「話すチカラ」を育てる



多くの人が暮らす社会の中で欠かせないコミュニケーションの力。その力の土台となるのが人の話を「聞く力」と、自分の思いを伝えるための「話す力」です。「話す力」を育むには、話す経験を重ねることが必要です。話す経験をたくさんするには、子ども自身に話したいという欲求がなくてはなりません。

★子どもが話したいという思いになるには2つの要素が必要です。

▼「話したいことがある」

嬉しかった、悲しかった、悔しかった…。

さまざまな感動体験が話したいという思いを膨らませます。

▼「話したい人がいる」

家族やお友だちなど、自分の好きな人（＝信頼関係にある人）に

自分の感動体験を伝えたいという思いを抱きます。



話す力を伸ばすために重要になるのが、会話におけるおとなのサポートです。子どもは語彙力はもちろん、表現力などもつたないので自分の思いをうまくことばで伝えられません。おとなが会話の中で上手にサポートして、子どもの話す力を伸ばしていきましょう。

★「話す力」を育てる3つのポイント

ポイント① 聞き上手になる

子どもの話には、「へ〜」「それで、それで？」などと 相づちを打ちながら、興味を示して聞きましよう。また、「いっぱいがんばったね」「きれいなお花だね」など、子どもに共感しながら話を聞くことも大切です。



ポイント② ことばを補い、話をさらに発展させる

「昨日、公園に行ったね」と子どもが言ったら「だれと行ったっけ？」と質問したり、「お山おもしろかった」と言ったら、「砂場でお山作って おもしろかったね」とことばを補ったり、より豊かな会話に発展させましよう。



ポイント③ 話をせかしたり、話し方を注意したりしない

思いをことばに置き換えるのにまだ時間がかかるため、「あのね、あのね」ばかりで話が先に進まなかったりすることも。せかしたり、注意をしたりすると、話すことに対する失敗感や自分の思いを伝えきれないもどかしさが残り、話すことが嫌になることもあるので注意ましよう。



★発達段階別 「話す力」を育てる関わり方

▼【0～1歳】「まんま」「あー」など一語発話

おとなは状況に応じて、「ミルク欲しいのね」などと意味のあることばに置き換え、子どもの気持ちの代弁を図りましょう。子どもは、「伝わった」という充実感が得られ、さらに活発にやりとりするようになります。



▼【2歳】「見て、見て」「お花、赤」など 感じたことを短いことばで伝える

「赤いお花が、きれいね」などと共感のことばを返しつつ、さらに「こっちは白いお花、たくさん咲いているね」などとつなげ、1往復から2往復の会話へと発展させましょう。子どもの興味が、コミュニケーション力の成長を助けます。



▼【3歳】連続した長いことばを話すようになるが、つかえたりすることも多い

場や人を区別できるようになるため、照れたり警戒したりして、話せるのに話さないということも。話すことを急がせたり、無理強いせず、子どもがしゃべりだすのをゆっくりと待ちましょう。



▼【4歳】主語・述語のある複文を話す。言いたいことを整理して、内容が伝わる話し方ができるようになる

1対1で話すときの話し方、大勢の人の前での話し方、おとなへの話し方、友だちへの話し方など、場に合わせた話し方があると気付かせることが大切です。また、相手に分かりやすく話せるようなサポートを心掛けましょう。

▼【5歳】相手や話題に合わせた話し方ができる。ことばを順序よく並べて話すことも徐々にできるようになる

相手の思いに気持ちを巡らせながら話せることが目標。自分の思いを相手に伝えるように話したり、相手の話からその気持ちを受け止め、自分の思いとの折り合いをつけられるように、仲間と協力するあそび体験や子ども同士で話し合う経験を重ねましょう。

※参考【 Pri Pri （世界文化社 発行）】

